

# **SILENT GRAND PIANO**

**取扱説明書**

# 安全上のご注意 (必ずお守りください)

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

## 記号表示について

△ 記号は、**危険、警告または注意**を示します。

⊘ 記号は、**禁止行為**を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、**行為を強制または指示**することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

※ お読みになった後は、使用されるかたがいつでも見られる所に必ず保管してください。



## 警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



本機の内部に触れたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。



使用中に音が出なくなったり、異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災の恐れがあります。



ACアダプターは、必ず付属品を使用する。

異なったACアダプターを使用すると、故障、発熱、発火などの原因になります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電の恐れがあります。



電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。

感電やショート of の恐れがあります。



本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

## ⚠️ 注意

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性があります。

- ⊘ ACアダプターコードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、ACアダプターコードに重いものを乗せない。ACアダプターが破損し、感電や火災の原因になります。
- ⚠️ 電源プラグを抜くときは、ACアダプターコードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。ACアダプターが破損して、感電や火災が発生する恐れがあります。
- ⊘ タコ足配線をしない。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。
- ⊘ ACアダプターやプラグが痛んだときは使用しない。また、長期間使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。
- ⚠️ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。感電または機器の損傷の恐れがあります。
- ⊘ 直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- ⊘ 不安定な場所に置かない。機器が転倒して故障したり、お客様がケガをしたりする原因になります。
- ⚠️ 本機を移動するときは、必ずACアダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。コードを傷めたり、お客様が転倒したりする恐れがあります。
- ⚠️ 本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。ケガをする恐れがあります。

- ⚠️ 本機を使用しないときは、鍵盤蓋や屋根を閉める。鍵盤蓋や屋根の開閉は、両手で静かに行う。また、自分や周りのかたが、不用意に本機に触れないようにする。鍵盤蓋や屋根に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。
- ⚠️ 地震のときは、本機から離れる。地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをする恐れがあります。
- ⊘ 外装をお手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本機の上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。外装や鍵盤が変色・変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ⊘ 本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。また、スイッチやツマミ、入出力端子などに無理な力を加えない。本機が破損する原因になります。
- ⊘ 正常な通気が妨げられるものを、本機のそばに置かない。通気が十分でないと本機内部に熱がこもり、火災が発生したり、本機が破損する原因になります。
- ⊘ 大きな音量で長時間使用しない。聴覚障害の原因になります。ヘッドフォン、あるいはアンプ、スピーカーと組み合わせて使用する場合は、大音量になりやすいためご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

このたびは、ヤマハサイレントグランドピアノをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

ヤマハサイレントグランドピアノを正しくお使いいただくため、お使いの前に本書をよくお読みください。また、お読みになった後は、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

## 本機の特長

ヤマハサイレントグランドピアノは、長年にわたる楽器づくりの経験と高度なエレクトロニクス技術を結集して開発した消音機能付きグランドピアノです。

普段は通常の生ピアノとしてお使いいただけるほか、当社独自のサイレントシステムにより、夜間などにも高い表現力で、消音(サイレント)演奏をお楽しみいただけます。

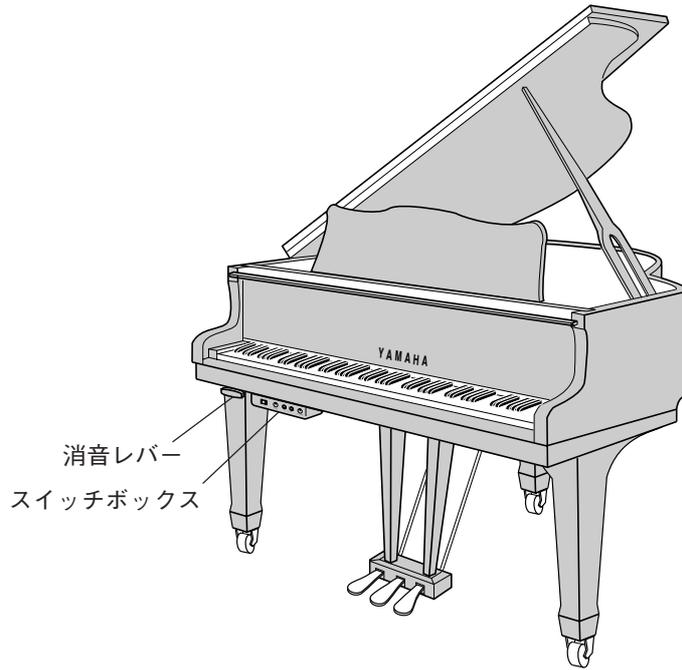
補足

・ 本書は、消音演奏時の取り扱い方法を記載した説明書です。通常の生ピアノとしてご使用になる場合の取り扱い方法につきましては、別冊の取扱説明書をご覧ください。

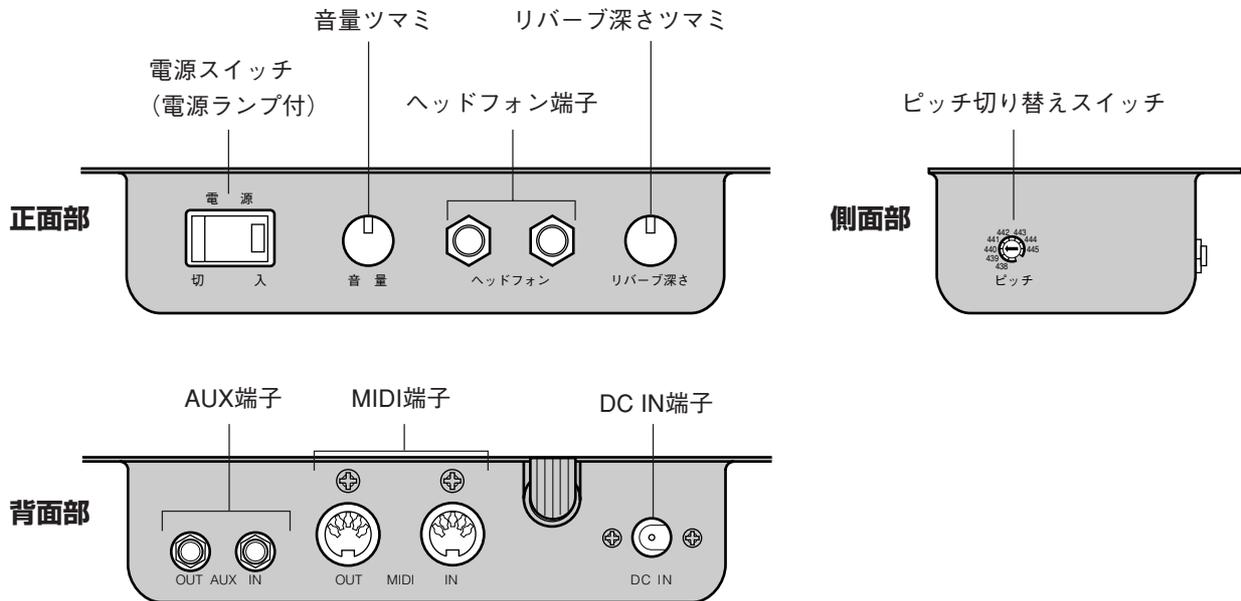
## 目次

安全上のご注意	2	ピッチを変える	
本機の特長	4	ピッチを切り替える	8
<b>基本編</b>		ピッチを微調整する	8
各部の名前	5	他の機器と接続する	10
付属品	5	他のMIDI機器と接続する	11
専用ACアダプターの接続について	6	<b>資料編</b>	
消音(サイレント)演奏をする	6	試聴曲の再生	12
<b>応用編</b>		音のエチケット	13
リバーブの設定		おもな仕様	13
リバーブの深さを調節する	7	おかしいと思ったら	14
リバーブの種類を切り替える	7	MIDIインプリメンテーションチャート	15
		保証とアフターサービス	裏表紙

## 各部の名前



### スイッチボックス



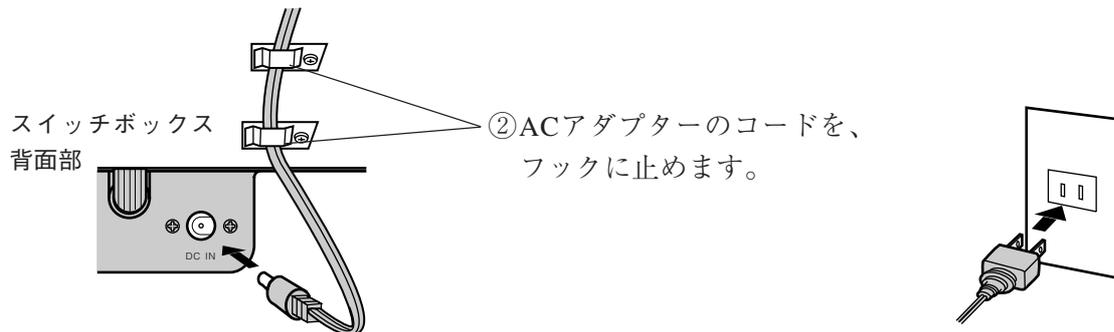
## 付属品 (お確かめください)

納入時には、次のものが付属されています。ご使用になる前にお確かめください。

- ◆専用ACアダプター(1個：非売品)
- ◆ステレオヘッドフォン(1個：HPE-170)
- ◆取扱説明書(本書)

# 専用ACアダプターの接続について

消音(サイレント)演奏をする場合は、付属の専用ACアダプターを次のように接続します。



① スイッチボックス背面部にあるDC IN端子に、ACアダプターのDCプラグを差し込みます。

③ 家庭用(AC100V)コンセントに、ACアダプターの電源プラグを差し込みます。

## ⚠ 注意

- ・ ACアダプターのコードにたるみを持たせてください。コードやプラグに無理な力が加わると、ACアダプターが破損して、感電や火災が発生する恐れがあります。

# 消音(サイレント)演奏をする

## 1 消音レバーを手前に引く

“カチッ”と音がするまで引きます。

## 2 ヘッドフォンを接続する

付属のヘッドフォン・HPE-170を、ヘッドフォン端子に接続します。

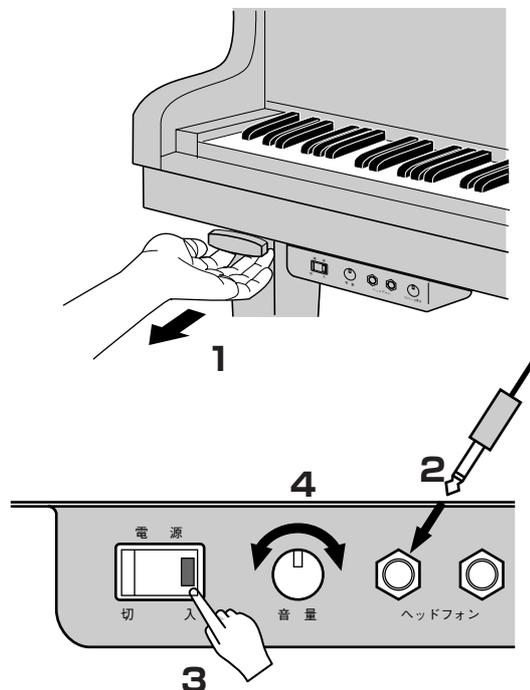
## 3 電源を入れる

電源スイッチの“入”側を押して、電源を入れます。

※電源ランプが点灯します。

## 4 音量を調節する

音量つまみを中央付近まで回した後、実際に演奏して音量を決めます。



- ・ 消音演奏では音が出なくなり、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。ただし、鍵盤をたたく音は消せません。
- ・ ヘッドフォンは2つまで接続できますので、演奏をもう一人のかたが確認したり、連弾することも可能です。
- ・ 生ピアノ演奏に戻すときは、電源スイッチの“切”側を押して電源を切ります。次に、消音レバーを一度手前に引いてから戻します。
- ・ 音を外部に出力するときは、市販のアンプ内蔵スピーカーをご使用ください。  
(アンプ内蔵スピーカーは、一部の機種で内部処理のため発音が遅れることがあります。スピーカーを使用される場合にはあらかじめご確認ください。)

補足

## リバーブの設定

リバーブとは、音に残響を付け加えて音の響きを豊かにする効果です。

### リバーブの深さを調節する

リバーブ深さつまみを回すことにより、リバーブの深さ(かかり具合)を調節することができます。

左へ回すと：  
響きが浅く(弱く)  
なる



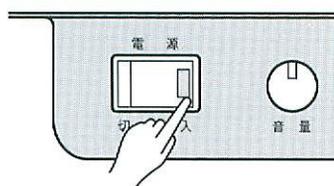
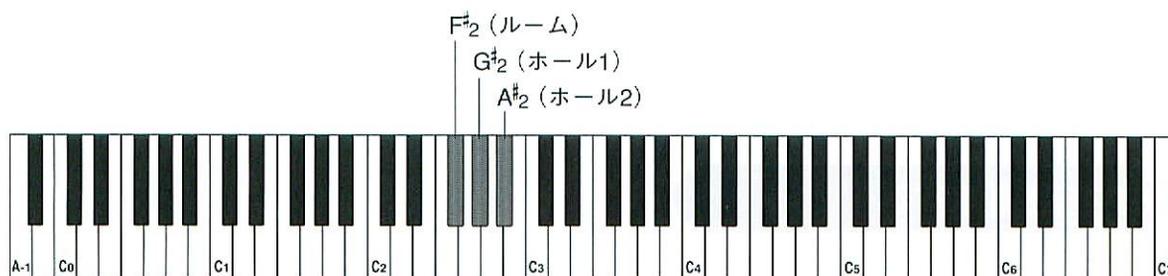
右へ回すと：  
響きが深く(強く)  
なる

補足

・リバーブ深さつまみが左いっぱいの状態になっていると、リバーブはかかりません。

### リバーブの種類を切り替える

通常の方法で電源を入れるとホール1のリバーブが選ばれますが、下記のように黒鍵を押しながら電源を入れることにより、リバーブの種類を切り替えることができます。



押しながら



電源を入れる

**ルーム** :  $F\sharp_2$ を押しながら電源を入れる  
響きやすい部屋の中で弾いたときのような音になります。

**ホール1** :  $G\sharp_2$ を押しながら電源を入れる  
小さなコンサートホールの中で弾いたときのような音になります。

**ホール2** :  $A\sharp_2$ を押しながら電源を入れる  
大きなコンサートホールの中で弾いたときのような音になります。

補足

- ・電源を入れて約3秒後に「カチッ」という音が聞こえたら、すぐに鍵盤から指を離します。
- ・リバーブの種類の設定は電源を切ると解除され、次回通常の方法で電源を入れるとホール1に戻ります。

# ピッチを変える

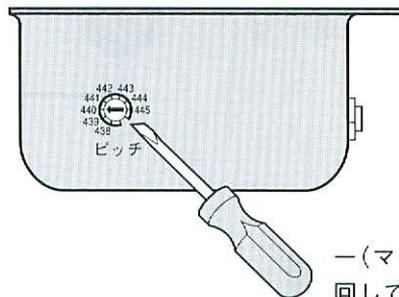
## ピッチを切り替える

スイッチボックス側面部には、ピッチ切り替えスイッチがあり、スイッチを回すことによりピッチ(音程)を切り替えることができます。

一般的に標準のピッチは $A_3=440$ ヘルツですが、声楽やオーケストラの演奏では曲によって、あえてピッチを変えることがあります。

あらかじめピッチが数値で分かっている場合は、ピッチ切り替えスイッチを使用してピッチを合わせてください。

スイッチボックス側面部



—(マイナス)ドライバーで、  
回して設定します。

補足

- ・ピッチは438ヘルツ～445ヘルツの範囲内で、1ヘルツきざみの設定ができます。(1ヘルツ=約4セント)
- ・工場出荷時のピッチは、 $A_3=440$ ヘルツになっています。

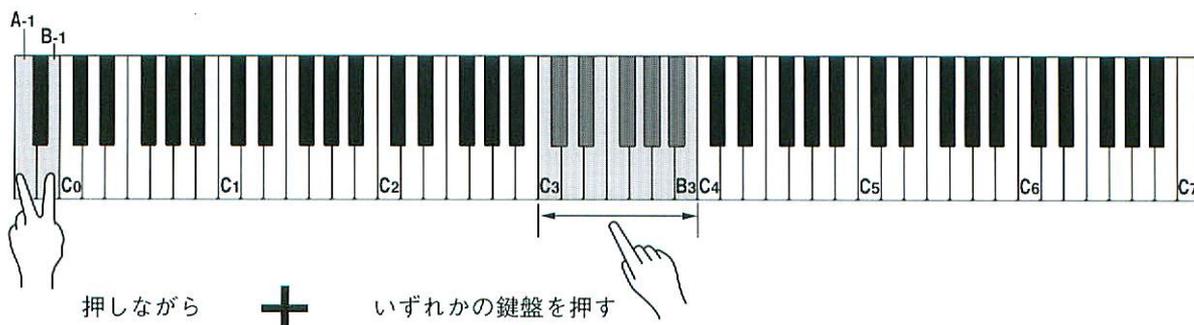
## ピッチを微調整する

ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチ(音程)を、さらに微調整することができます。この機能を使うことにより、他の楽器とピッチを正確に合わせることができます。合奏のときなどに楽器間でピッチがずれていると、両者の間で音にうねりが生じます。本機と他の楽器の両方を鳴らしながら、うねりがなくなる高さに調整してください。

### ピッチを上げるとき

- ①A-1とB-1の鍵盤(左端の白鍵2つ)を同時に押しながら、
- ②C<sub>3</sub>～B<sub>3</sub>いずれかの鍵盤を押します。

1回押すごとに少しずつピッチが上がります。音を聴きながらピッチをこきざみに上げて、他の楽器と合わせてください。

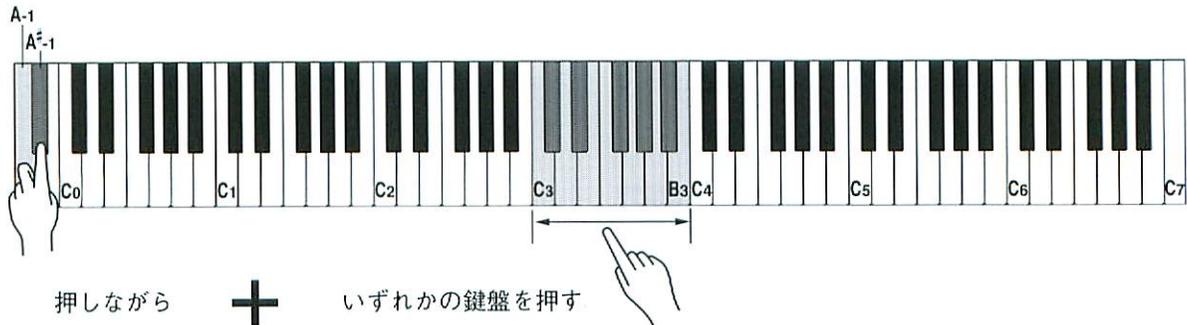


## ピッチを下げるとき

① A<sub>1</sub>とA<sup>♯</sup><sub>1</sub>の鍵盤(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押しながら、

② C<sub>3</sub>～B<sub>3</sub>いずれかの鍵盤を押します。

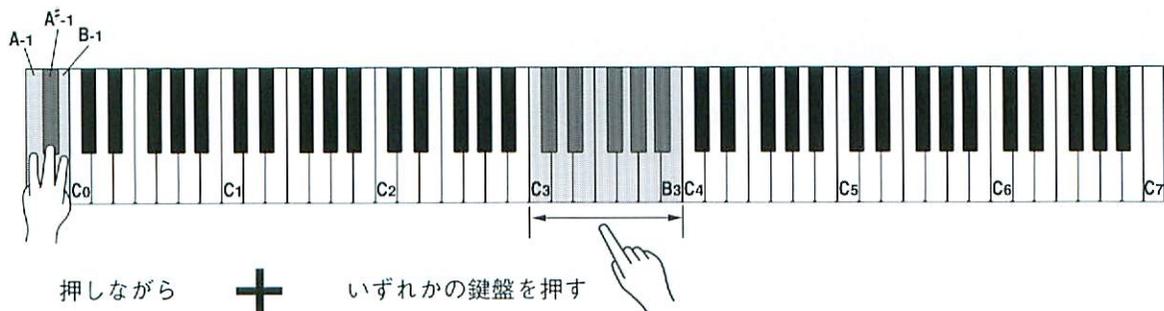
1回押すごとに少しずつピッチが下がります。音を聴きながらピッチをこきざみに下げて、他の楽器と合わせてください。



## ピッチ切り替えスイッチで 設定したピッチに戻すとき

① A<sub>1</sub>とA<sup>♯</sup><sub>1</sub>とB<sub>1</sub>の鍵盤(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押しながら、

② C<sub>3</sub>～B<sub>3</sub>いずれかの鍵盤を1回押します。



### 補足

- ・ピッチは土約50セントの範囲内で、約1.2セントきざみの設定ができます。(100セント=半音)
- ・鍵盤で設定したピッチは電源を切ると解除され、次回電源を入れると、ピッチ切り替えスイッチで設定したピッチに戻ります。

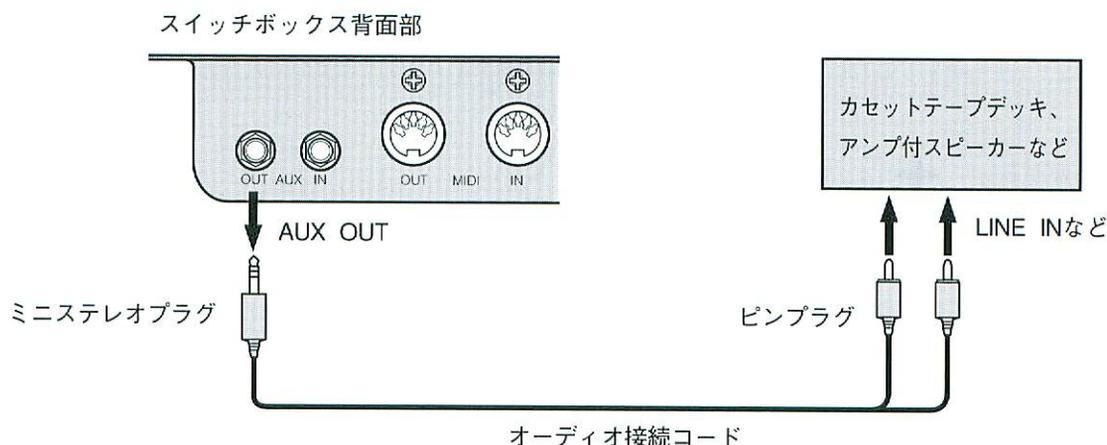
# 他の機器と接続する

スイッチボックス背面部にあるAUX端子を使って、他の機器と接続できます。ここでは、AUX端子の使用例をご紹介します。

## AUX出力(AUX OUT)端子の使用例

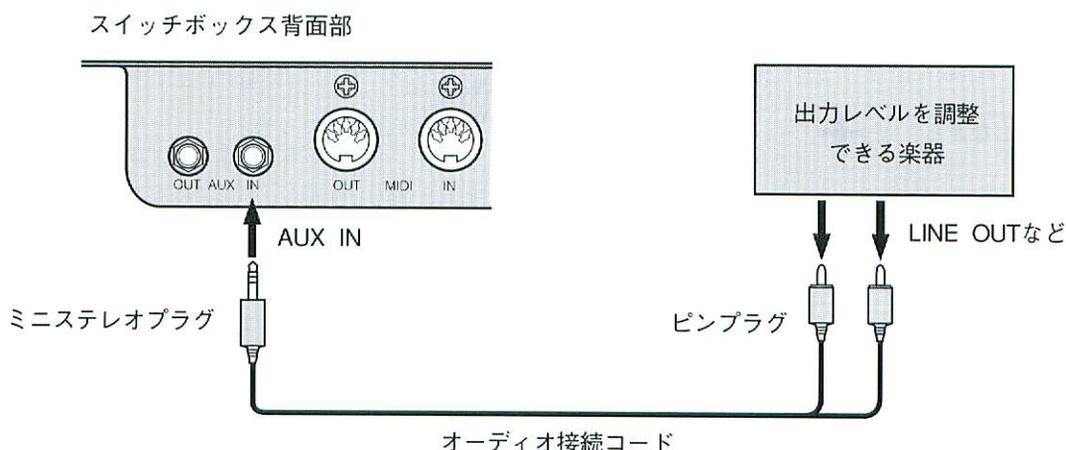
カセットテープデッキに接続すると：本機での演奏を録音できます。

アンプ付スピーカーに接続すると：アンプ付スピーカーからも音を出せます。



## AUX入力(AUX IN)端子の使用例

他の楽器を接続すると：他の楽器の演奏音を、本機のヘッドフォンで聞くことができます。



### ⚠ 注意

・接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。感電または機器の損傷の恐れがあります。

補足

- ・オーディオ接続コードおよび変換アダプターは、抵抗のないものをお使いください。
- ・AUX入力端子より入力された音は、本機では音量調節できません。相手側のボリュームで音量調節してください。

# 他のMIDI機器と接続する

スイッチボックス背面部にあるMIDI端子を使って、他のMIDI機器と接続できます。ここでは、MIDI端子の使用例をご紹介します。

## MIDI出力(MIDI OUT)端子の使用例

他のMIDI楽器に接続すると：本機での演奏を、他のMIDI楽器の音色で鳴らすことができます。

シーケンサーに接続すると：本機での演奏情報を、シーケンサーやヤマハ・ハローミュージックに記録できます。



## MIDI入力(MIDI IN)端子の使用例

他のMIDI楽器を接続すると：他のMIDI楽器の演奏を、本機のピアノ音色で鳴らすことができます。

シーケンサーやヤマハ・ハローミュージックを接続して、それらを再生すると：

シーケンサーやハローミュージックに記録されている演奏情報を、本機のピアノ音色で鳴らすことができます。

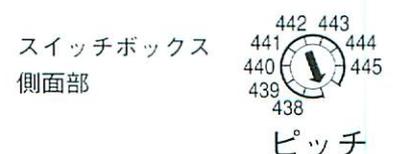


### 補足

- ・ 接続は、必ず両機器の電源を切ってから行ってください。
- ・ MIDI端子を装備した機器に限り、接続が可能です。MIDIは、MIDI機器同士の連携プレイを可能にするメーカーを超えた世界共通の規格です。

## MIDI受信チャンネルの切り替え

ピッチ切り替えスイッチで、MIDI受信チャンネルを切り替えることができます。通常MIDIの送受信はチャンネル1に設定されていますが、ピッチ切り替えスイッチを438ヘルツの1つ右にある目盛に合わせると、チャンネル1+2の受信が可能になります。



-(マイナス)ドライバーで回して、  
438の1つ右の目盛に設定します。

### 補足

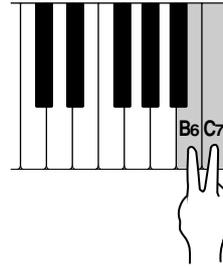
- ・ MIDIの受信をチャンネル1+2に設定した場合、ピッチは440ヘルツに固定されます。ただし、鍵盤による微調整は可能です。(→8ページ)
- ・ 右手パートと左手パートを別々のチャンネルに記録してある曲を再生するときなどに設定します。

## 試聴曲の再生

本機には試聴用の曲が8曲入っており、再生させることができます。

再生させるときは、ヘッドフォンまたは市販のアンプ内蔵スピーカー(外部出力)をご使用ください。

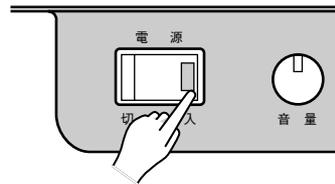
- ①B<sub>6</sub>とC<sub>7</sub>の鍵盤(右端の白鍵2つ)を同時に押しなが  
ら、電源を入れます。



押しながら



電源を入れる

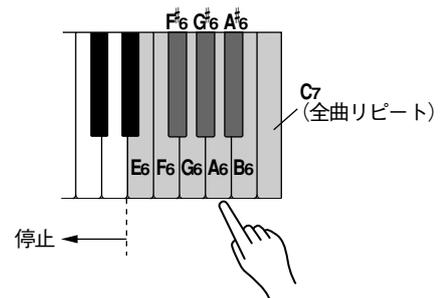


補足

- 電源を入れて約3秒後に「カチッ」という音が聞こえたら、すぐに鍵盤から指を離します。

全曲リピートになり、1曲目から8曲目までが繰り返し再生されます。

- ②操作①の後に、1曲だけ再生させるときは、E<sub>6</sub>～B<sub>6</sub>いずれかの鍵盤を押します。押した鍵盤の曲が再生され、終わると停止します。再度全曲リピートさせるときは、C<sub>7</sub>を押します。また、E<sub>6</sub>よりも左側の鍵盤を押すと、再生が停止します。



- ③試聴曲の再生モードを解除するときには、電源を入れ直します。

補足

- 電源を切るまでは、再生が停止していても再生モードになっているため、該当する鍵盤を押した時点で再生が始まってしまいます。

### 試聴曲リスト

曲番号(鍵盤)	曲名/作曲者名
1曲目(B <sub>6</sub> 鍵盤)	スケルツォ第2番/ショパン
2曲目(A <sub>6</sub> <sup>#</sup> 鍵盤)	I Hear A Rhapsody/George Frajos, Jack Baker, Dick Gasparre
3曲目(A <sub>6</sub> 鍵盤)	前奏曲集第1巻より、「亜麻色の髪の乙女」/ドビュッシー
4曲目(G <sub>6</sub> <sup>#</sup> 鍵盤)	Somewhere Out There/Cynthia Weil, James Horner, Barry Mann
5曲目(G <sub>6</sub> 鍵盤)	ピアノソナタ第12番第3楽章/モーツァルト
6曲目(F <sub>6</sub> <sup>#</sup> 鍵盤)	When I Fall in Love/Albert Selden
7曲目(F <sub>6</sub> 鍵盤)	夜想曲(ノクターン)第5番/ショパン
8曲目(E <sub>6</sub> 鍵盤)	Easy Winners/Scott Joplin

# 音のエチケット

---

## 音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

## おもな仕様

---

- ◆ 鍵盤 …………… 88鍵 (A<sub>1</sub>～C<sub>7</sub>・7オクターブ1/4)
- ◆ 最大同時発音数 …………… ステレオ32音
- ◆ 効果・機能 …………… リバープ (ルーム、ホール1、ホール2)  
ピッチコントロール
- ◆ その他コントロール …… 電源スイッチ (ランプ付)、音量ツマミ  
リバープ深さツマミ、ピッチ切り替えスイッチ
- ◆ 付属端子 …………… ヘッドフォン端子 (標準ジャック) ×2、AUX端子 (IN、OUT/ミニジャック)  
MIDI端子 (IN、OUT)、DC IN端子
- ◆ 定格電源 …………… AC100V、50/60Hz
- ◆ 定格消費電力 …………… 27W (DC15V、2A)
- ◆ 付属品 …………… 専用ACアダプター (非売品)、ステレオヘッドフォン・HPE-170、取扱説明書

※ 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

# おかしいなと思ったら

おかしいなと思ったときは、まずこの表に沿って調べてください。

現象	原因	解決法
本機の電源が入らない。	ACアダプターの電源プラグが、コンセントに差し込まれていない。	家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。→6ページ
	ACアダプターのDCプラグが、本機側に差し込まれていない。	スイッチボックス背面部のDC IN端子に、確実に差し込んでください。→6ページ
	電源スイッチが切れている。	電源スイッチの“入”側を押して、電源を入れてください。→6ページ
電源スイッチを入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	—	電気が流れたためです。ご心配いりません。
まったく音が出ない。	音量ツマミが最小になっている。	音量ツマミを右に回して、音量を上げてください。→6ページ
	ヘッドフォンの接続が不完全。	ヘッドフォンを確実に接続してください。→6ページ
	消音演奏時に、生ピアノ演奏をしようとしている。	生ピアノ演奏を行うときは、消音レバーを元の状態に戻します。→6ページ
演奏時に「カタカタ」と音がする。	鍵盤をたたく音です。	故障ではありません。
消音演奏時にも、生ピアノの音が出る。	極端に強く打鍵すると、生ピアノの音が出る場合があります。	打鍵の強さを加減してください。
リバーブがかからない。	リバーブ深さツマミが、左いっぱいになっている。	リバーブ深さツマミを右に回して、適度な深さに設定してください。→7ページ
生ピアノ演奏時に、音量調節やリバーブ、ピッチなどの機能がまったく働かない。	—	消音演奏時に働く機能です。
音が残りすぎる。 (残響がかかりすぎる。)	リバーブ深さツマミの設定が深すぎる。	リバーブ深さツマミを左に回して、適度な深さに設定してください。→7ページ
他の楽器とピッチが合わない。	ピッチ切り替えスイッチが、他のピッチ位置になっている。	ピッチ切り替えスイッチのピッチ位置を、他の楽器のピッチに合わせてください。→8、9ページ
	本機で可変できるピッチの範囲を越えている。	他の楽器側でピッチを変えてください。
市販のヘッドフォンで聴くと、音量や音のバランスが異なる。	付属のヘッドフォンと特性が異なるため。	付属のヘッドフォンと同じものを、お使いください。
AUX端子を使って接続したが、両機器間の音量のバランスがとれない。	片方の機器のボリューム(音量ツマミ等)だけで、音量を調整しようとしている。	両機器のボリューム(音量ツマミ等)を操作して、音量バランスをとってください。
他のMIDI機器と、情報をやりとりできない。	MIDIケーブルの接続が不完全。	両機器のMIDI OUTとMIDI IN端子間を、MIDIケーブルで確実に接続してください。→11ページ
	本機のMIDI送信チャンネルまたは受信チャンネルと合っていない。	他の機器のMIDI送信チャンネルまたは受信チャンネルを、チャンネル1(または1+2)にしてください。→15ページ

# MIDIインプリメンテーションチャート

Date : 1996. 1. 8  
Version : 1.0

ファンクション	送信	受信	備考
ベーシック チャンネル 電源オン時 設定可能	1 ×	1、1+2 1、1+2	
モード 電源オン時 メッセージ 代用	3 × *****	3 × ×	
ノート ナンバー 音域	21-108 *****	0~127 0~127	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ ○	○ ○	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	○ ×	○ ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
コントロール チェンジ 64 66 67 91 120 121	○ ○ ○ × × ×	○ ○ ○ × ○ ○	ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル(シフトペダル) リバーブ・デブス  オール・サウンド・オフ リセット・オール・コントローラーズ
プログラム チェンジ 設定可能範囲	× *****	× ×	
エクスクルーシブ	×	×	
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル クロック タイム コマンド	× ×	× ×	
その他 ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	× ○ (123~125) ○ ×	
備考			

モード1：オムニ・オン、ポリ      モード2：オムニ・オン、モノ      ○：あり  
モード3：オムニ・オフ、ポリ      モード4：オムニ・オフ、モノ      ×：なし

# 保証とサービスについて

本機の保証期間は、保証書に記入されたご購入の日付から1ヶ年です（現金、ローン、月賦などによる区別はございません）。また保証は、日本国内にてのみ有効いたします。

## 保証書

保証書をお受け取りの時は、お客さまのご住所、お名前、お買上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効となりますので、くれぐれもご注意ください。

## 保証書は大切に保管しましょう。

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに、保証規定に則りご購入の日から向こう1ヶ年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくこととなります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮の上で保管してください。また、後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

## 保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整致します。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。またお買上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あるいはヤマハにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続き致します。

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明な点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

## 本機についてのお問い合わせは、もよりのヤマハピアノ特約店／下記のヤマハへ。

### ◇修理のご依頼/修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品サービス拠点(修理受付および修理品お持込み窓口)

#### ◆修理のご依頼/修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理受付センター FAX(053) 463-1127  
受付 月曜～金曜日 9:00～19:00 土曜日 9:00～17:30  
(日曜、祝祭日および弊社休業日を除く)

ナビダイヤル  
(全国共通番号)



0570-012-808

#### ◆修理品お持込み窓口

受付 月曜～金曜日 9:00～17:45  
(土曜、日曜、祝祭日および弊社休業日を除く)  
\*サービスセンターおよびサービスステーションへの電話は、  
電気音響製品修理受付センターでお受けします。

北海道サービスステーション 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1-1-50  
FAX (011) 512-6109

首都圏サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2-1-1  
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F  
FAX (03) 5762-2125

浜松サービスステーション 〒435-0016 浜松市東区和田町200  
ヤマハ(株) 和田工場2F  
FAX (053) 462-9244

名古屋サービスセンター 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2  
ヤマハ(株) 名古屋流通センター3F  
FAX (052) 652-0043

大阪サービスセンター 〒564-0052 吹田市広芝町10-28  
オーク江坂ビルディング2F  
FAX (06) 6330-5535

九州サービスステーション 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
FAX (092) 472-2137

### ◇操作/取扱いについてのご相談窓口

ピアノインフォメーションセンター 営業時間 月～金 10:00～18:00  
土 10:00～17:00  
(祝日およびセンター指定休日を除く)  
フリーダイヤル 0120-084808

### ◇その他、本機全般についてのご相談窓口

#### ヤマハ株式会社

ピアノ事業部 営業部 〒436-0038 静岡県掛川市領家1480  
TEL.0537-24-8213

国内営業本部 ピアノ企画部  
ピアノ企画グループ 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11  
TEL.03-5488-5442

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります